

令和3年度大雪山国立公園連絡協議会総会議事録

■日 時：令和3年5月14日（金）14：00～15：40

■会 場：上川町役場大会議室

■出席者：資料のとおり（出席者名簿のうち、美瑛町、上富良野町が欠席）

■概 要

1. 開会

■大雪山国立公園連絡協議会 会長 佐藤上川町長

- ・今日は大変忙しい中、特に新型コロナウイルスの緊急事態宣言が出されそうな状況下にお集まり頂きお礼申し上げます。また、日頃より本協議会の運営にご協力、ご支援をいただいていることに対しお礼申し上げます。
- ・2020年6月総会で総合型の協議会へと改組され同時に大雪山国立公園ビジョンが策定され新たなスタートを切った。表大雪東大雪それぞれの登山道維持管理部会が設けられ登山道整備技術指針の今後の活用検討、大雪山グレードや携帯トイレの普及に向け新たな取り組みも開始された。管理運営計画、協力金の2つの作業部会が設置されそれぞれの課題やテーマに関する課題や具体的な検討も進められている。
- ・2021年度は、ビジョンの実現に向け新たな協議会体制を基にそれぞれの取り組みや事業を進めると共に、幅広い多くの主体が連携することで相乗効果を発揮し、協議会としての取組を加速していければと考えている。
- ・本日は、令和3年度の事業計画等を中心として協議をお願いしたい。引き続き皆様のご協力ご支援をお願い申し上げます。

2. 議事

(1) 審議事項

- 1) 令和2年度事業報告について
- 2) 令和2年度会計報告について
- 3) 令和2年度会計監査について

以上、1) 及び2) について、事務局より資料に基づき説明、3) について監査鹿追町長の代理の商工観光課より監査報告が行われた。

→質問・意見等無し

- 4) 令和3年度事業計画について
- 5) 令和3年度事業予算について

以上、4) 及び5) について、事務局より資料に基づき説明。

■大雪と石狩の自然を守る会 寺島氏

- ・収入の負担金の各市町村の割合はどのように決めているのか。

■事務局

- ・各市町同一の基本金部分と面積割等によって振り分けを行っている。

■北海道大学大学院地球環境科学研究院 渡辺氏

- ・資料1-4について、予算書の支出にグレードマップの印刷と記述があり、登山道入口においておくことは良いことだと思う。しかし、利用する側からすると事前に情報を入手できることが重要で、そのためには市販された地図にも大雪山グレードを載せてもらう努力が必要だ。登山者には等高線が入った地図が不可欠であり、紙媒体の地図に加えて、スマホのアプリで見られる等高線付きの地図を含め、多様な地図にグレードマップを載せてもらうようにすべきではないだろうか。

■事務局

- ・登山に来る前段階で情報をいかに提供するかということは重要であり、協力金を進めるに当たっても事前段階で現地の重要な情報をしっかりと伝えることがますます求められてくる。紙媒体にだけにとらわれない他の方法も考えていく。

■（一社）十勝岳かみふらの観光協会 青野氏

- ・予算書に携帯トイレ普及推進事業として20万円予算計上されているが、昨年度トムラウシ山で配布ボックス作り、携帯トイレ配布も入っていると思われるが、その場合どのくらいの携帯トイレを配る予定でいるのか。十勝岳の方では凌雲閣でオリジナル携帯トイレの販売を行い、売った部分の一部でも携帯トイレを整備していく中、お金を寄付できたら良いなと考えている。トムラウシ温泉では販売されていないからこのようなことが進められているのか、またこれからも配布というものを継続的に行う予定なのか。

■事務局

- ・携帯トイレ普及推進事業ではキャンペーングッズ、回収ボックスの設置を基本的には考えている。ただ、各地で携帯トイレを普及させるために携帯トイレそのものの配布もあるのかもしれないが、各地域で協力金の取り組みが行われるところ、行われているところが協力金によって実施していく動きで、協議会の予算の中で行っていくということではない。
- ・資料1-1の別添3のトムラウシ山の携帯トイレ配布ボックスは、R3年度に実施する予定。協議会から携帯トイレの提供をするということを含めて連携し、携帯トイレの無人販売で得た協力金を寄付金として扱おうと考えている。
- ・今回の取り組みはトライアルの販売であり、登山者が事前に準備してくるのが望ま

しいが、そうでない登山者も中にはいる。無人販売を行い、どのくらいの人がきちんとお金を払ってくれるのかということも含めて試験的に行うものである。

■（一社）十勝岳かみふらの観光協会 青野氏

- ・販売を行うための携帯トイレを買う予算はこの20万円に含まれているのか、いくらぐらい買う予定なのか。
- ・トムラウシ温泉から登山口が遠く買っていかれる方が少ないということなのか。

■事務局

- ・トムラウシ山では携帯トイレを持っているという人は多く、持っていないという人はそれほどいない。数についてはまだ決まっていなく、新得山岳会の方とも連携して検討していく予定である。

■（一社）十勝岳かみふらの観光協会 青野氏

- ・この20万円の中から少しは携帯トイレを買う予定であるということか。あとは協力がどのくらい集まるかという検証の中で考えていくということか。

■事務局

- ・検証の範疇で行っていく。

-6) 大雪山国立公園連絡協議会規約の改正について

→質問・意見等なし

-7) 大雪山国立公園連絡協議会における議事の公開方法について

■(株)りんゆう観光 植田氏

- ・YouTube 配信について出席者に確認が取れたら良いと思う。アーカイブとして見直すことはできるのか。

■事務局

- ・協議会のアカウントを使い、アカウントに動画として残っているので、後日確認できるようになる。

(2) 報告事項

-1) 大雪山国立公園管理運営計画検討作業部会の進捗状況について

→質問等無し

-2) 大雪山国立公園協力金等検討作業部会の進捗について

■北海道大学大学院農学研究院 愛甲氏

- ・モデル地域における実践について、どのような取り組みが白雲岳周辺で行われるの

か共有してほしい。

■事務局

- ・白雲岳避難小屋来訪者に対し、任意で1000円の協力金をお願いするというのが、基本的な考え方。白雲岳避難小屋管理業務請負者である(株)北海道山岳整備が業務を担当。收受方法は現金となっている。協力金に対する登山者の理解を訴求し、質問にも対応するため、避難小屋管理人が必要に応じ、説明を行う。現在、作業部会において検討中である取組方針との整合性を保つため、情報発信をおこない、会計報告の透明性を持たせるという実施計画になっている。

-3) 表大雪地域/東大雪地域登山道維持管理部会からの取組状況の報告

※報告後、各団体から意見をいただく。

■山樂舎 BEAR 佐久間氏

- ・昨年度から大雪山国立公園連絡協議会の枠組が変わり民間団体も加わったが、形が変わっただけで、内容がどれほど変わったのか今の段階ではわからない。今後は民間も加わったことで現場から色々な意見が出てくる。是非、構成員やオプザーバーの方々と共有し、せっかく作った形を内容のある会にしていければと思う。

■大雪山国立公園パークボランティア連絡会 黒田氏

- ・登山道維持管理という最大の目的は利用者に安全な登山を提供するということ。大雪山の場合、登山道に雪が残っている時と、ない時で環境が大きく変わる。シーズン始めは雪渓での事故があるので、登山道において柔軟な対応が必要なのではないかと思う。今後よろしくお願いします。

■NPO 法人大雪山自然学校 藤氏

- ・協議会の形が今までとどのように変わったのかわかっていないが、それぞれの現場の人は様々な課題に向き合っていたり、考えていたりする。そのようなものを持ち寄って、今までよりも現場に役立つ議論ができれば良いと考える。

■新得山岳会 小西氏

- ・登山道整備では環境省の委託事業でトムラウシ山の巡視や軽作業を行っている。本州からトムラウシ山に登りに来た人に「百名山なのにこんな田んぼ道になっなにやっているんだ」と怒鳴り帰った人がいる。アウトドアを勘違いしている人も中にはいる。
- ・年々登山道は良くなってきているが泥道が続いており心配ではあるがトムラウシ山の場合は執行者が環境省ということで毎年予算をつけてもらい少しずつ良くなってきている。しかし、新得側からの十勝岳の登山道は執行者がいなく、現在藪漕

ぎ状態になってきている。このままだと風情ある新得側からのコースは登れなくなるのではないかという心配をしている。執行者を早く決めてもらいたい。また、登山口まで行く林道も台風によってかなり荒れた状況である。登山道に行けない林道もある。森林管理署の働きに期待したい。

-4) 各構成員からの情報提供、情報交換について

■(株)りんゆう観光 山崎氏

- ・資料 2-4-1 参照 参照資料を登山口や HP 等に情報を載せる予定

■北海道大学大学院農学研究院 愛甲氏

- ・資料 2-4-2 依頼文、調査票参照 アンケートの対象者は協議会関係者。ご承認いただけたら協議会事務局と相談後、後日北大の方から調査票を郵送かメールで送る予定。
- ・Web でも答えられるようになっている。協議会等で集計結果を適宜ご報告させていただければと思う。

ご提案については異議なしで満場一致

■北海道運輸局 観光部 水口氏

- ・5/6 に発表となったが、Adventure Travel world summit がバーチャル開催になった。このサミットは土地の文化、人とのコミュニケーションが重要視されている中、入国の行動制限が現在行われている中で企画開催しても十分な利益を受けないのではないのではないかという判断。初めてのバーチャル開催を成功させようと現在準備を進めている。
- ・大雪山国立公園で長期滞在のプログラム、冬のプログラムを DMO と共に計画している。計画・実施が決まりましたら、関係者にご相談させていただく。

3. その他

■事務局

- ・総合型の協議会となってまだ間もないが、管理運営を進めていくうえでこれ以上ない場ができたという認識。第一級の国立公園にふさわしい第一級の仕組みを目指していこうということで間違いない。
- ・何が変わったかわからないという意見も聞かれたが、協力金に代表されるような新たな取り組みも始まる。登山道の整備技術をさらに磨いていこうという内部の動きもある。一つの場で共有してより素晴らしい国立公園をつくろうという新たな枠組みとなる。
- ・構成員として参画していただいている意義を感じていただけるような状況を作れるように事務局としても頑張っていきたい。

■十勝自然保護協会 川内氏

- ・4月23日に自然公園法が改正された。新聞では野生動物のえさやりに罰金というところがよくニュースになっていたが、利活用というところが強くなってきているのではないかと思う。満喫プロジェクトは全国的に8の国立公園で行っており、大雪山国立公園でもいずれ展開されていくと思うが実際どうなのか聞きたい。

■事務局

- ・国立公園を考えていくときに過去から保護と利用を両立させ、持続可能な状況をつくりながら展開してきた。満喫プロジェクトは2016年から5カ年で実施され、現在では全国の34の国立公園に水平展開されている状況。どこかの国立公園だけが行うのではなく、全国の国立公園で過去5カ年の経験、実績をそれぞれの現場で取り入れていく考え方。利用という面が確かに大きなテーマで特に外国人に対応して世界水準の国立公園を作っていこうという趣旨があるが、素晴らしい自然があってそれをいかに保全して、それを持続可能なツーリズムとして確立するのかということであり、どちらかに偏った考え方ではなく貴重な資源を持続可能に活用していくかということが最も重要。大雪山の場合は登山道の管理というものを通じて、元々ある自然を元の状態で極力維持する仕組みを考えながら、素晴らしい自然体験をできる場を確保していくとこだと思っている。そのために管理運営計画や協力金の仕組みを作る流れの中にあるのだと思っている。

■北海道大学大学院地球環境科学研究院 渡辺氏

- ・先ほど、環境省の方から協議会に民間の人が参加している意義が十分あるようにしていくという話があった。協議会が総合型に拡大したのは重要なことだと思う。協議会の下に部会はあるが、協議会には財団のような恒久的な組織も必要で、そうした組織を早期に設立して、民間の力をフルに使うことができ、小回りがきくようにすることが大事だと思う。そのような議論を是非早急に行ってもらえるように要望する。

■事務局

- ・大連協の下には部会と作業部会があり、それをどのように続けていきながら、そのような具体的な議論や意見交換を行っていけるかが今後より一層重要になってくるのでこちらこそお願いしたい。

4. 閉会

■北海道地方環境事務所 安田所長

- ・本日はお忙しいところ沢山お集まりいただき感謝。1年前にこの協議会が実質的に発足されビジョンを策定したところであり、ビジョン実現に向け重要な年である。管理

運営計画の検討と協力金の取組み、リニューアルオープンした白雲避難小屋を中心とした協力金の収受の試行とそれを活用した登山道の整備など、着実に進めていきたい。

- ・コロナ感染症の影響は非常に厳しく事業も制約を受けることになると思うが、地域の方と協力しながら着実に進めていければと思う。
- ・4月から大雪山国立公園管理事務所長が新しく着任、上川町からも出向いただいている。こういった体制の中でより具体的に事業を展開できればと思っている。今後ともご協力ご支援をよろしくお願いいたします。